

邦文

I. 全体について

『映像学』は横書きで印刷される。

1. 句読点

外国語の引用や文献に関する表記を除いて、読点（、）と句点（。）を使用する。

2. 数字

数字は原則として半角の算用数字を用いる。漢数字を用いるのは「一生」や「第一歩」や「二つ」など、漢数字を用いないと不自然な場合に限る。

3. 年代

原則として西暦で表記する。元号を併記する必要がある場合は、1897（明治30）年のようにする。

4. 引用

- (1) 数行にわたる長い引用の際は、前後を各1行空け、左側を全角で2字相当インデントにする。この場合、引用部の初めと終わりのカギ括弧はつけない。ただし、台詞など、引用箇所の初めと終わりにちょうどカギ括弧がついている場合はそのまま引用する。
- (2) 文中で引用するときはカギ括弧でくくる。その際、引用文末尾の句点は除く。また、カギ括弧の中の一重カギ括弧は小カギ括弧にする（この場合、二重カギ括弧は用いない）。
- (3) 未邦訳の外国語文献から引用する場合は、日本語に訳し、必要に応じて適切な位置に原語を挿入する。既存の邦訳から引用する際に訳文を変更する場合は、必ずそのことを明記する。また、文献のタイトルも日本語に訳す。

5. 注番号の位置

文末では句点の直前に、文中でカギ括弧を使って引用する場合は終り括弧の直前に挿入する。

6. 節・項

- (1) 各節の番号には1、2、3などの全角算用数字をふる。
- (2) 番号だけでなく「1. 複製技術としての写真」のように見出しを付けることが望ましい。
- (3) 節をさらに項に分ける際は「1. 1 複製技術としての写真」のようにすることが望ましい。
- (4) 「序論」「結論」または「はじめに」「おわりに」等には番号をふらない。

7. 映像作品のタイトル

- (1) 日本で劇場公開や映画祭上映、テレビ放映、ソフトの市販が行なわれるなど、既に邦題が付いている場合は、そのタイトルを用い、二重カギ括弧に入れる。
- (2) 劇場公開された作品（映画祭での上映を含む）は公開時の邦題を使う。
例：『二十四時間の情事』（1959年）。
- (3) 劇場未公開で、テレビ放映時やソフト（ビデオカセット、レーザー・ディスク、DVD、ブルーレイなど）が市販された際に邦題が付けられた作品については、典拠を明記した上でその邦題を用い、原題

を丸カッコに入れて添える。

- (4) 上記以外の作品については、タイトルを日本語に訳して一重カギ括弧でくくり、原題を丸カッコに入れて添える。

例：「望遠鏡で見たもの」 (*As Seen From the Telescope*)

8. 外国語の人名や地名などの固有名詞

原則として日本語の音でカタカナ表記し、本文もしくは注の初出時に原語を添える。

9. 図表

それぞれ、図1、図2、表1、表2のように番号を付し、下記のようなタイトルを図表の下につける。図には映画のスチル写真や写真作品も含む。

例：図1 『怪猫からくり天井』において、鈴木澄子が扮した怪猫の顔

例：表1 1957年5月の年代別・ジェンダー別映画観客数

なお、図表の掲載に際しては、『映像学』投稿規定「2. (4)」に則り、他人の著作権を侵害しないようにすること。

II. 文献について

1. 典拠の明記

下記のAかBのどちらかの方式を選択し、論文内で必ず統一すること。

A 文末注

本文中には注番号だけを付し、文末の注の中に引用文献の書誌情報を埋め込む。

B 括弧内注記+文末文献リスト

本文中および注の文章中の引用箇所後に丸括弧に入れて典拠を明示し、書誌情報は文末の文献リストに列挙する。

この場合、本文中および注で典拠を明示する方法には、「(著編者の姓 刊行年: ページ数)」や、「(著編者の姓、ページ数)」または同じ著編者の異なる著作から引用する場合には「(著編者の姓、タイトルの全体または部分ページ数)」などがあるが、論文内でいずれか1つに統一する。

例：写し絵は「学校教育、社会教育、宣伝やプロパガンダと多様な領域で活用され」ることになった(岩本 2002: 269) / (岩本 269) または (岩本『幻燈』269)。

2. 書誌情報の表記

- (1) 基本的に、単行本は「著編者名『タイトル』、発行所、刊行年」、雑誌論文は「著者名「論文のタイトル」、『掲載誌のタイトル』、巻号、刊行年、掲載ページ数」、論集に収録されている論文は「著者名「論文のタイトル」、編者名『論集のタイトル』、発行所、刊行年、掲載ページ数」のように項目と順序を統一すること。

例：岩本憲児 『幻燈の世紀——映画前夜の視覚文化史』森話社、2002年。

藤井仁子「文化する映画——昭和十年代における文化映画の言説分析」、『映像学』66号、2001年、5-22頁。

中村秀之「見えるものから見えないものへ——『社会科教材映画大系』と『はえのいない町』(一九五〇年)の映像論」、丹羽美之・吉見俊哉編『戦後復興から高度成長へ——民主教育・東京オリンピック・原子力発電』(記録映画アーカイブ2)、東京大学出版会、2014年、

61-98 頁。

- (2) 邦訳書を参照した場合は、訳書の情報を上記の要領で記した後、原書の情報をカッコに入れて記す。原書を参照した場合、邦訳書がある時はその情報をカッコ内に入れて記す。

例：ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』花輪光訳、みすず書房、1985 年、25-26 頁。(Roland Barthes, *La Chambre claire: Note sur la photographie*, Paris: Gallimard, 1980.)

または、

Barthes, Roland, *La Chambre claire: Note sur la photographie*, Paris: Gallimard, 1980.
(ロラン・バルト『明るい部屋——写真についての覚書』花輪光訳、みすず書房、1985 年。)

- (3) 文末文献リストの順序は、著者の姓のアルファベット順とする。

3. 外国語文献

- (1) 英語文献については、広く採用されているシカゴ、MLA、APA などのいずれか 1 つの方式に準拠し、論文内で必ず統一すること。それぞれのマニュアルは、ウェブサイトで公表されたり書籍として刊行されたりしているので参照されたい（邦訳されているものもある）。
- (2) 他の外国語文献についても、適宜、合理的な方式で統一すること。

4. インターネット上の情報

当該情報がアクセス可能であることを原稿投稿の時点で確認し、URL とアクセスの日付を次のように明記する。

<http://www.xxx.yy.zz> (0000 年 00 月 00 日)

投稿時点でアクセス不能の場合は、その旨を明示し URL へ最後にアクセスした日付を明示する。

英文

1. 全体について

広く採用されているシカゴ、MLA、APA などの標準的なマニュアルのいずれか 1 つに準拠し、論文内で必ず統一を図ること。それぞれのマニュアルはウェブサイトで公表されたり書籍として刊行されたりしているので参照されたい（邦訳されているものもある）。

2. 日本語のローマ字表記

- (1) 原則として「訓令式」(Kunrei-shiki romanization) を採用する。
ただし、拗音などはヘボン式に従う。例：「しゅ」は「shu」（「syu」ではなく）。
- (2) 海外を拠点にして活動している場合を除き、日本人の氏名は日本語の慣例の順序とする。

例：Satō Tadao

ただし、外国語で出版した著作の書誌情報は原典の表記に従う。

- (3) 日本語文献のタイトルを音訳する場合は、固有名詞を除き、最初の語のみ大文字で始める。
例：Eiga riron shūsei. Ozu Yasujirō no geijutsu.

3. 英語以外の原題を持つ映像作品

- (1) 英語のタイトルを用い、初出時に原題を添える。

(2) 劇場公開、映画祭上映、市販ソフトなどで流通しているタイトルがあるものは斜体で、それ以外の場合は立体で表記する。

例：*Tokyo Drifter* (“Tôkyô nagaremono,” 1966)